

第44回 全空知子どもの作品を語る会 赤平豊里大会 題材屋台案

題材屋台担当者名 岩見沢市立東光中学校 岩井 敦子

題材名	おしゃべりする人たち
-----	------------

領域	小学校全学年 立体工芸 (粘土)
----	------------------------

1. 題材について

- ★ 最少人数（2～3名）のグループで相談しながら、粘土を使って「座っておしゃべりを楽しんでいる友だち」の様子を粘土で表現します。
- となりの人とどんな会話をしているのか、仲間と相談しながら想像力をふくらませることができます。
 - 会話にあったポーズを実際にやってみたり、座っている様子を粘土で形成する中で、ムーブメント（動勢）・プロポーション（人体比率）・マッサ（量感）・バランス（均衡）・など、人体の成り立ちをこどもたちなりにとらえることができます。
 - 友だちの作品とペアにしたりたくさん並べたりすると、お互いの作品のよさに気づいたり、新しい会話の内容が広がったり、新たな想像力が生まれることが期待されます。
 - 粘土は、自分の想いを形に表しやすいと思います。また、何度でも作り直すことができたり、モデリング・カービングが自在に楽しめるので、子どもたちの発想がダイレクトに伝わります。

2. 素材・材料について

材料：石彫粘土

- * 重量のある粘土であれば、飾った時に安定感がある。
- * 紙粘土の場合は、石などをお尻の部分に埋めると安定感がでる。また、乾いた後に着色可能。

用具：粘土ベラ（数種類、なければ割り箸など）・粘土板・段差（腰掛けている様子を試すため）

爪楊枝や割り箸（腕や頭などのジョイント部分に埋めるともげたり、重さで曲がったりしない）

3. 題材のテーマ

(1) ハートのテーマ（制作する動機付け・焦点化したい子どもの中の気づき）

- ★ となりの人とどんな会話をしているのかな？どんな格好かな？相談しよう！その格好をしてみよう！（会話の広がり・会話にあったポーズ・人の身体のなりたち・彫塑の要素）

(2) ハンドのテーマ（どのような方法を通して制作するか・少しの抵抗感・ハードル）

- ★ 座っているとき、どうしたら安定して座っていられるかな？試してみよう！（段差で実際に確かめ試行錯誤）
- ★ 頭や腕や脚がもげないでいられるにはどうやって作ったらいいかな？（「ひねり出し」を中心に・芯材）

(3) つながるテーマ（制作を通して他の人と共感するために）

- ★ どんな話し声が聞こえる？友だちの作品と一緒に飾ってみよう！仲間を増やそう！（展示や鑑賞の楽しさ）

4. 制作の手順・留意すること

- ① グループングしてどんな会話をしているか相談する。* 友だちとのやり取りや気づき・発想を大切にする。
- ② 話し合いをしながら制作する。* 安定性のある座り方や手足の作り方のアドバイスを友達同士でさせる。
- ③ 飾りつけの工夫。* どんな会話をしているのか内容をじっくり聞き、共感する。想像力の広がりを大切に。

5. その他

作りはじめから制作途中、飾り付けや鑑賞まで、友だちとの話し合いや発想・気づきを楽しめることが大切。